

# カサゴ稚魚を効率生産する低塩分飼育法

～仔魚の大量死亡を克服し生産性2倍へ！～



連携機関 | 尾道市

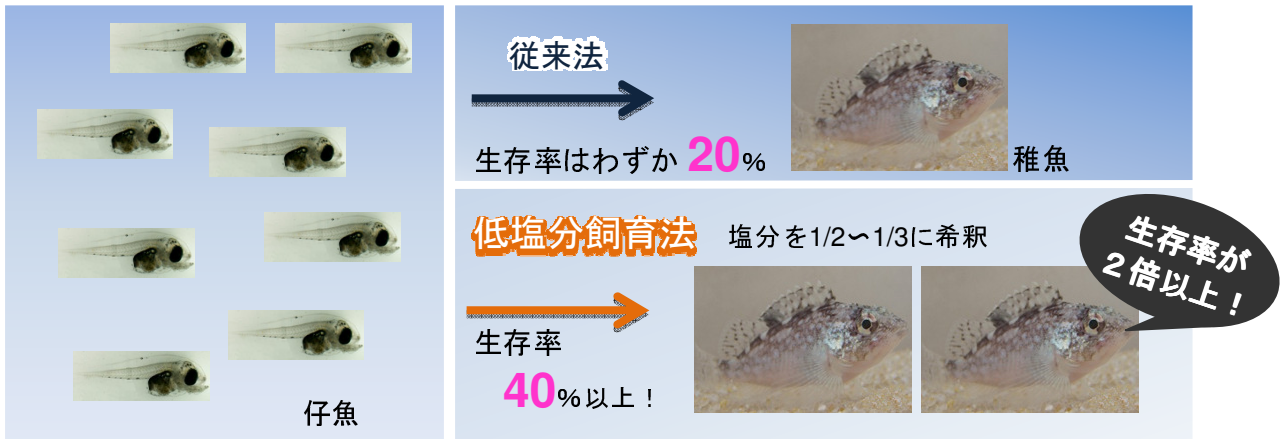
研究期間 | 平成18～20年度[県費研究・受託研究]

## 研究開発のきっかけ

- ◆ カサゴは市場価格は約1,500円/kgと比較的高く、漁業者から放流要望の高い魚種です。県東部を中心に、最盛期には226トンの漁獲がありましたが、平成15年にはその半分まで落ち込みました。
- ◆ 産まれてくる仔魚は大きさが4mmと小型であるため、飼育が難しく、変態期に大量死する課題を克服する必要がありました。
- ◆ 当センターではオニオコゼで低塩分飼育法を確立し、種苗の量産化に成功していました。この技術をカサゴの稚魚生産にも適用できると考えました。

## 研究成果の概要

- ◆ 仔魚（しぎょ）は成長とともに稚魚に変態しますが、その際大量の仔魚が死亡します。
- ◆ 低塩分飼育法は、海水の塩分を1/2～1/3に希釈して飼育する方法で、稚魚の大量死を防ぎます。
- ◆ この技術で、稚魚1尾あたりの生産コストは従来法より23%削減できます。
- ◆ 「海産魚類における仔稚魚の抗病的飼育方法」（特願2005-110987）として特許出願中です。



- ◆ 仔魚（しぎょ）の体液塩分濃度は海水の1/2～1/3です。飼育海水濃度をそれに合わせることで、体液塩分濃度調節のためのエネルギー消費が少なくてすみ、変態時にみられる病気等での死亡が減少しました。

## 研究成果の活用状況

- ◆ （社）広島県栽培漁業協会に技術移転を行い、平成22年度は5万尾の試験生産を達成しました。
- ◆ 平成19～22年度に尾道地区に毎年4千～6万尾を放流し、その後、放流効果を調査しました。漁獲されたカサゴの22%が放流した魚で、高い放流効果を実証されました。
- ◆ 平成23年度から生産されている稚魚は、県東部海域を中心に放流され、漁業者の漁獲に貢献しています。

問い合わせ先 | 水産海洋技術センター 技術支援部 | TEL 0823-51-2173